



姉妹島との交流を深める 南大東島へ (9月21日~25日)

沖縄那覇空港からさらにJALのプロペラ機で東に1時間のところに南大東島がありました。八丈島の玉置半衛門が約120年前に開拓入植したことが縁で、40年ほど前から交流が始まり、毎年（コロナ禍の期間は除く）八丈島から町長、議員（2人）、町職員、太鼓六人会が訪問してきました。村の中学生が八丈の中学校に来て様々な体験をする交流も続いています。今年は、山下則子議員と私が「豊年まつり」に参加して交流を深めました。

サトウキビ栽培 3m近くもあるサトウキビの畑が一面に広がる平らな島です。「ざわわ ざわわ ざわわ」という歌が聞こえてくるようでした。台風の通過点にある島とも言われ、さぞ台風に悩まされているかと思っていましたが、実際には雨が少なかったために時々の台風の雨が恵みになっていると聞き、驚きました。今年はそのおかげで、久々の豊作だったそうです。



山がなく湧水もないので、飲料・生活用水は海水を真水にして利用していました。その装置は島に数カ所あり、飲料水として使用するだけでなく、下水を浄化することにも活用しているとのことでした。

文化の伝承 ここには八丈島と沖縄の文化が混然一体となった独特の文化がありました。そのひとつが食文化。ワサビ付きの「大東寿司」なる島ずしです。寿司ダネはマグロやサワラで、島の自慢の味になっていました。もう一つは、江戸相撲です。本格的な神事として伝承されていて、子供たちから大人まで様々な年代の取り組みが一日かけて行われます。

「豊年まつり」 もっとも盛大な年中行事で、村長はじめ老若男女すべての住民が準備段階から参加します。私たち2人も持参した八丈の“はっぴ”を身にまとい、山車の練り歩きに参加しました。2人の町職員は神輿の担ぎ手やけん引役で引っ張りだこ、江戸相撲にも出場して活躍しました。夜には各地区の宴会に呼ばれ、翌日の野外舞台の演芸会では六人会が太鼓を披露しました。まつりに積極的に参加することでお互いの島を理解し、交流を深めることができました。



島を守るのは地域愛 南大東島を訪ねて感じたことは、島に対する住民の強い思いです。伝えられた歴史や文化だけでなく、天候・地形・産業に対しても愛情と誇りをもっていることでした。一人一人が役割を認識して責任を果たしていることが、地域のまとまりや活気につながっているのだと思います。

南大東島（1,200人）と八丈町（6,900人）では人口規模が異なり、人と人の距離も違っているとは思いますが、この島で学んだ精神をこれからの島の暮らしにどう活かしていくか、例えばイベントや地域のまつりの充実、地域活動の支援などを考えていきたいと思っています。





2024年6月議会 一般質問



1. 旧末吉小学校の施設整備について

東京宝島サステナブル事業で、多目的交流施設としての機能をさらにアップさせ、意欲的に活用する姿勢は理解できます。ただ、別の視点も加え、宿泊可能な施設にすることも考えてほしい。4月半ばに、経済企業委員会で島しょ保健所にヒアリングを行い、その後委員会を開きこの点について企画財政課の説明を受けました。もっと大局的な視点で旧末小をとらえてほしいと考えます。

問 これまでの町の取り組みの評価は

企画財政課長 平成25年の閉校から、学習交流施設や簡易宿泊所として利活用を進める方向で、大学の合宿受け入れや、熱中小学校の実施、簡易宿泊所の認可に向けた施設整備に取り組んできました。認可が下りないなどから課題を検証し、新たな運営方針を策定しました。「八丈島の魅力発信」「地域コミュニティ活性化」「探求活動環境整備」を掲げて取り組んでいるところです。

問 簡易宿泊所の認可や浴室機能をもたせることについて町の考えは。

町 簡易宿泊所の認可をとることは考えていません。未整備の教室もあるので複合的利用を前提に運営を進めていきます。

問 保健所の説明では、浴槽がなくても男女を分けたシャワー室が整備されていれば認可は可能とのことでした。人口が減り公民館の再建も困難と言われる末吉の将来を考えると、浴室機能を備えることで、防災拠点、避難場所としても重要な場所となります。地域を守るために、前向きに考えてほしいです。

町 施設全体の利用を総合的に考えていきます。

2. 歴史民俗資料館に配属されるスタッフについて

耐震補強工事を終えたあとの、歴民の新しい姿が示されました。受付に職員2名、事務所に1名（学芸員）をおき、これまで常駐していたガイドのサービスは行わないとの説明でした。

問 ガイドを終了する経緯はどのようなものですか。

教育長 新資料館には解説員は配置せず、説明表示とWEBコンテンツで案内。コスト面、同一内容の説明を提供することの困難さから判断しました。

問 今後、必要になった場合に復活する予定はありますか。

町 常駐解説員（ガイド）の配置は考えていません。

問 町の見解を理解しかねます。今のガイドは知識の蓄積が多くアンケートでも評価されています。地元の人との交流を深め、八丈の文化を知ってもらうためにも必要と考えます。他の施設の視察でもガイドの重要性を再認識しました。その意義を感じているので存続を望みます。町の感想を聞かせてほしい。

教育長 冷静に考えてほしい。様々な要因を考慮しての結論です。ただ、全くゼロということではなく、必要に応じて対応するつもりです。



写真：八丈町HPより



2024年9月議会 一般質問



1. 施政方針で述べられた内容は実現できているか

山下町長が再選されて1年になるが、当選後の言葉や施政方針で述べたことのうち、特に職員対策についてどのように改善されているのか、伺う。

問 町職員の退職者対策について、退職者との時間を設け、理由を把握し、改善できるのであれば対応していく、とあるがその成果は。

総務課長 今年度より退職を希望する職員と面談し理由を聞いている。

町長 理由は職場環境や人事など。転職の希望もあり町としてできないこともある。

問 職員に対するアンケートの内容と結果は。

町 アンケートを集計処理している最中なのでお答えできない。

問 職員間の意見集約をはかる態勢づくりに取り組むとしているが、その成果は。

町 令和6年、係長級で会議をもち働きやすい職場を目指し、ワーキンググループを立ち上げた。「町長と語ろう会」を実施していきたい。

2. マイナ保険証への移行はどのようにすすめられるのか

昨年12月、議会は「健康保険証を当面廃止しないよう求める意見書」を採択した。同様の意見書は全国から多く提出されたが国民の声は届かず、12月2日をもって現在の保険証は廃止されることが決まった。医療行政のデジタル化の必要性は認めつつも、任意であるはずの制度が実質的には強制になっていることへの違和感はぬぐえない。移行にともなう課題にどう対応するのか。

問 八丈町でのマイナ保険証の利用状況は。

住民課長 保険証としての利用は、10.12%。

問 事前登録が必要。登録すればメリットがあり、マイナポータルアプリで簡単にできることはわかるが、スマホを使いこなせない高齢者や認知症のかた、要介護・障がい者に対する支援はどのように進めるのか。職員の負担は。

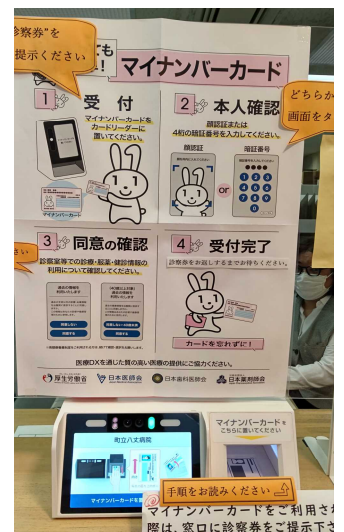
町 マイナ保険証について、昨年1月に住民課窓口で登録方法の支援を実施した。認知症や要介護・障がい者に対する支援は困難と考える。

問 マイナ保険証への移行を促すために、病院や薬局などに支援金を出しているとの報道があるが、町立病院も受けているか。効率を上げるための指導があるとも聞く。

病院事務長 病院では利用率が上がっていないので支援金の対象にならない。

問 マイナ保険証では登録のほかに、受診ごとの提示と暗唱番号が必要。今後住民への分かりやすい情報提供が必要になるが、どのように行うのか。

町 広報などで説明していく。「強制ではありません」の言葉も加えている。



住民懇談会を実施しました

今年度は10月21日(月)から25日(金)までの5日間、三根、大賀郷、檜立、中之郷、末吉の5地区で住民の声を聞きました。この9月議会で「議会改革特別委員会」が発足し、この会が懇談会を企画・実行しました。私は5日のうち4日出席しました。内容の詳細は議会のホームページに掲載していますので、項目だけあげました。

- 介護度を上げないための取り組み ●閉園したむつみ第二保育園の利活用 ●外来種対策を
- 青年後見人の役割と課題 ●資料館のガイドの必要性 ●町役場に自然関係の部署を
- 観光地として公共交通機関の充実を ●療養保育を ●学校司書を ●檜立住民の避難場所
- 海岸の漂着物 ●最終処分場の使用延長に疑義 ●移住関連の支援金 ●子育て環境の改善
- 役場職員の人材不足 ●伐採木の処理 など、話題は多岐にわたりました。

一方で、住民の声をどのように議会へ届けたいか、また参加する住民が昨年とかなり重なっていたこと、5日間開催したことの成果と問題点など、いくつかの課題も浮き彫りになりました。全協議会で各議員の感想と意見を集約し、今後の方向性を決めたいと思います。

疑問が残るマイナ保険証

12月2日を期限に原則として現在の保険証は使えなくなるという国の方針。マイナ保険証の登録をすれば、様々な機能を利用できるとしています（実際、利便性は高い）。

しかし、本来マイナ保険証の登録は任意とされていたのに、給付金やポイントをつけるなどして医療機関に登録を促し、ほぼ義務化されていることに疑問を感じます。

障がいのある方、認知機能が低下している方、高齢の方などはマイナ保険証の登録が困難です。マイナ保険証は受診のたびに提示し、さらに暗証番号を入力する必要があります。マイナンバーカードそのものの有効期限もあるので、そのさいはマイナ保険証を作り直す必要もあります。

現在の保険証は約1年有効だとしても、「資格確認証」の期限は町の場合2年とされています。今の保険証と変わらないと思います。デジタル化への移行は必要ですが、対応が困難な人への配慮が欠けています。制度の普及状況を見て、住民にとって有効な対策を考えていきたいと思います。

編集後記



岩淵クリニックの閉院からほぼ1年が経ちましたが、

10月から「こころみクリニック」としてスタートしました。

現在はワクチン接種に限られていますが、来年1月からはこれまで通りの診療内容で実施されるそうです。

訪問看護や往診などを行うことで、町立八丈病院との連携の継続は今後も必要だと思います。

